美　術　科

多胡　慎平

主題「美術と社会の関わりについて探究し、新たな価値を創造することができる生徒」の育成

1　主題設定の理由

美術科は、表現及び鑑賞の活動を通して造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中で美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成し、人間形成の一層の深化を図ることをねらいとしている。中学校学習指導要領解説美術編に示されている美術の目標には、「心豊かな生活を創造していく態度」や「豊かな情操を培う」などがあり、これらの目標は、創造性や感性を豊かに育むことで、自己理解や他者との関係を深め、「幸福な人生」を築くための土台となるものである。

一方で、美術と「よりよい社会」との関係を見いだすことは、生徒にとっては難しい部分があると考える。例えば、美術が地域文化の継承や、環境問題、福祉や防災などといった社会の課題などにどのように関わるのかを実感するには、ある程度の学びの導きや構造が必要である。しかし、生徒がこうした美術と社会とのつながりを実感できるようになれば、美術を学ぶことに対するエージェンシーを発揮し、新たな価値を創造する探究的な学びが促進され、美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成につながるだろう。また、振り返りによる自己調整を促し、次の授業に対する見通しを生徒それぞれがもてるようにすることで、生徒自身がデザインする探究的な学びを実現することができると考える。

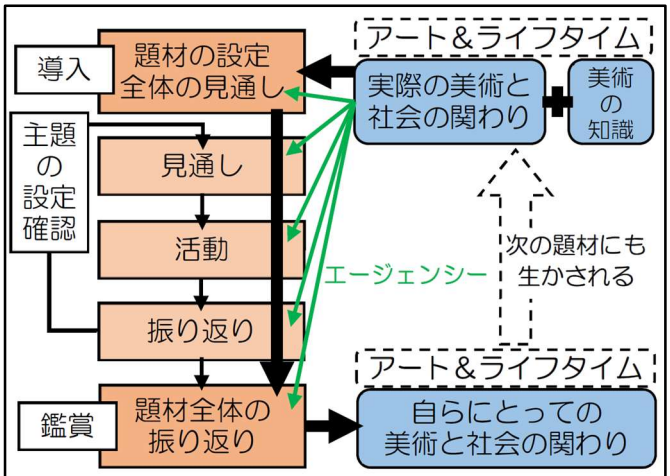
昨年度の研究においては、「美術と『よりよい社会』との関係について考えながら学習に取り組めたか」という質問に対し、87％の生徒が肯定的に回答した。多くの生徒が美術と社会との関係を意識して学ぶことができたことは一定の成果だった。しかし、生徒がその関係を踏まえて新たな価値を創造しようとする際に、「どのように学んだらよいのか」といった学びの見通しを十分にもてず、美術や社会から設定した主題を基に豊かに発想し構想した資質・能力を最後まで継続する力が不十分である様子が見られた。そこで、今年度は題材全体の計画を教師と生徒が協働しながら設定することで、教師と生徒が共通した見通しをもつことができるようにする。

以上のことから、今年度も継続して研究主題を「美術と社会の関わりについて探究し、新たな価値を創造することができる生徒」の育成とし、探究的な学びを実現するための具体的な手立てを通して実践研究を進める。

2　生徒がエージェンシーを発揮し、探究的な学びをデザインするための具体的な手立て

(1)美術と社会の関わりを探究するための「アート＆ライフタイム」の設定

美術科の特性として、生徒が自ら主題を設定し、発想や構想を練って作品を創造するという、創造的な活動が中心に据えられている。このような探究的な学びの中で、生徒がエージェンシーをより発揮するためには、個人の関心にとどまらず、美術を社会との関わりの中で捉える視点が重要となる。そこで本年度も継続して、美術と社会との関わりについて、題材の導入と終末で考える「アート＆ライフタイム」を設定する（図１）。導入の場面では、色や形が人にもたらす効果や、デザインが社会に及ぼす影響などに着目し、生徒の興味や疑問をから新たな発想を促す。また、題材全体を通して自らの構想を社会とどのように関連付けるかを探究し続けられるようにする。題材の終末では、鑑賞の活動を通して改めて美術と社会のつながりを捉え直し、自分にとって美術が社会とどのように関わっているかを明確

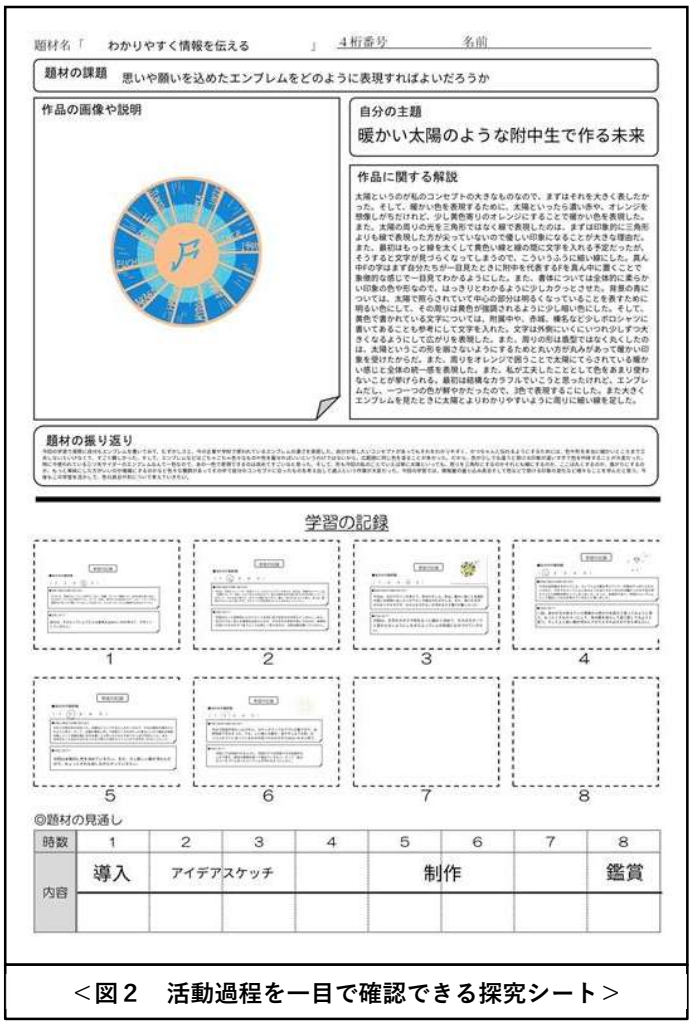


＜図１　手立て(1)と学習過程のイメージ＞

にする。こうすることで、生徒がエージェンシーを発揮しながら美術科の活動に取り組むことができるようになると考える。

⑵題材全体を見通し、自己決定、自己調整を促す探究シートの活用

昨年度は授業ごとに自分が何を学習していたかを振り返り記録する振り返りカードを設定し、その授業時間における自分の課題と次時の授業における自分の課題を記録できるようにすることで、毎授業ごとにAARサイクルを繰り返して授業を行うことができるようにした。今年度はそれを「学習の記録」として設定し、題材全体で自分がどのように試行錯誤を行ったり、アイデアが変化したりしたか、一目で全体を確認できるような探究シートを活用した。探究シートには題材全体の時数をもとにした枠を設定し、これらの時数枠を導入や構想、制作、鑑賞などの活動をどのように割り振るか生徒たちとともに考える。この枠を設定することで、生徒たちが次時でどのような活動をするか、次の活動までにどれくらいの時間があるかなど見通しをもって活動できるようにする。また、探究シートの上部には作品に関する解説をまとめる部分を設定した。生徒は題材の終盤に自分の作品についてまとめる際、下の学習の記録を振り返ることで自分がどのように活動を進め、試行錯誤の過程やどのような思考の変化があったか確認することができるようにしている。この探究シートを活用することで、生徒が題材全体を通して美術と社会に関わる自らの主題を最後まで捉えながら活動を行い、主題を振り返ることができると考える。



＜図２　活動過程を一目で確認できる探究シート＞

３　授業実践例

⑴ 題材　　学校のエンブレムをデザインしよう

⑵ 実施時期／学年／配当時間　　令和７年４月～７月／第２学年／全８時間

⑶ 題材の目標

学校や生徒、地域のイメージなどから主題を生み出し、モチーフや形などが感情にもたらす効果や、分かりやすさと美しさなどとの調和、統一感などを総合的に考え、学校のエンブレムをデザインすることができる。

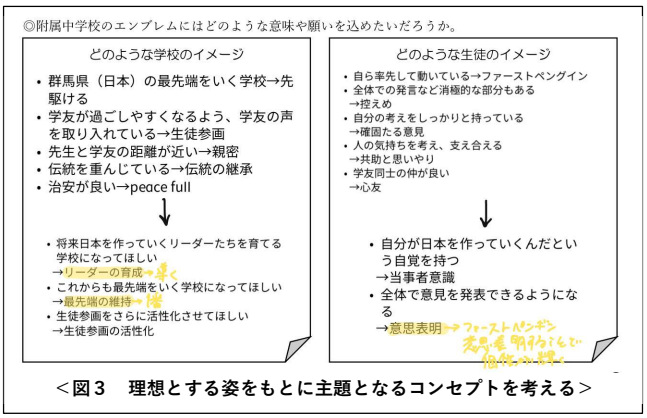
⑷ 実践の概要

この題材は、本校の制服が新しくなることを想定し、学校や学友の目標、校風、自分たちに求める理想の姿など様々な要素をもとに、学校のエンブレムをデザインするものである。

第１時の導入では、「アート＆ライフタイム」として本校の校章や企業のエンブレム、都道府県章など、それらのデザインにどのような意味や願いが込められ、表現されているかに関する調査学習を行うことで、美術と社会の関係について学習した。また、題材全体の流れを説明した後、生徒と相談しながらアイデアスケッチや制作、鑑賞にどのように時間を使うか全体の配分について考えた。

第２時では、学校目標や全校目標、自分たちが日々感じている校風、生徒が目指す理想の姿などについて、自分自身のもつ願いや考えのイメージを踏まえ、自らの主題となるデザインのコンセプトを設定した（図３）。

第７時では、生徒たちは作品の完成に向けて毎時間見通しをもちながら活動し、どのようにこの第７時を迎えるか自己調整を繰り返しながら取り組む姿が見られた。見通しをもって計画的に制作を進めてきた生徒たちの多くは、余裕をもって完成まで終わらせることができていた。



＜図３　理想とする姿をもとに主題となるコンセプトを考える＞

第８時では、生徒が制作した作品の鑑賞活動を行った。「アート＆ライフタイム」で考えたどのような学校や生徒を目指すエンブレムにするかというコンセプトをもとにし、それらを表現するためにどのような工夫を行ったかを話し合った。事前に生徒がそれぞれコンセプトをはっきりと決定させていたことで、デザインの形や色彩、モチーフに対し社会と関わる意味を意識しながら交流を行う姿が見られた。

４　研究の成果と課題

成果として、「アート＆ライフタイム」を経て生徒たちは自分たちがエンブレムを制作する活動を通して、社会の企業がエンブレムを考えることの難しさに気付きながら、美術と社会との関わりを意識し、エージェンシーを発揮しながら活動に取り組むことができた（図４）。

◆今回の学習で実際に自分もエンブレムを書いてみて、むずかしさと、今の企業や学校で使われているエンブレムの凄さを実感した。自分が表したいコンセプトがあってもそれをわかりやすく、かつちゃんと伝わるようにするためには、色や形を本当に細かいところまで工夫しないといけなくて、すごく難しかった。
◆今社会で使われているエンブレムのデザインに込められた思いを参考にしました。社会で使われているエンブレムは、１つに繋がっているということを表すために全てつなげたり、誰に伝えたいかを考えて伝えていたりしました。そこで、「枠にとらわれない」ことを表すためにあえて枠を利用したり、伝える対象を附中の未来を担う人たちとすることで、全体的にまとまりのある、伝えたいことが伝えやすいエンブレムにすることができました。
＜図４　美術と社会と自分の制作に関する生徒の振り返りより抜粋＞

また、探究シートで題材全体の見通しを常にもちながら授業を進めることで、生徒が次の活動を意識しながら活動したり、調整しようと相談しあったりする姿も見られ、生徒たち自身が活動を自己調整し、どうすれば自分にとってよりよいのか自身でデザインしながら学びを進めていた。それにより、題材全体を通して自らの主題を最後まで捉えながら活動を行う力を高めていたと考えられる。

課題としては、「新たな価値を創造する」生徒の育成のためには、まだ題材などに工夫が必要であると考える。「アート＆ライフタイム」や「探究シート」の活用によって、美術と社会の関わる自分なりの視点をもった主題を生み出すことはできていた。しかし、これまでに無かった意味や視点を生み出すことまでには至っていない。そのためには今後の題材設定にも工夫が必要であると考える。

５　今後の展望

今後は、題材設定を含めたどのような手立てがあれば、生徒が「新たな価値を創造する」ことにつながるかを考えていく必要がある。生徒が新たな価値という課題を解決するために、生徒が考える社会の課題などを基に社会や他者と美術をどうつなげていくか探究していきたい。

＜参考文献＞
文部科学省（2018）『中学校学習指導要領解説　美術編』,学校図書.
群馬県教育委員会（2019）『はばたく群馬の指導プランⅡ』.
三澤　一実・田中 真二朗他（2021）『美術の授業のつくりかた』,武蔵野美術大学出版局.
竹内　晋平（2023）『中学校美術新３観点の学習評価完全ガイドブック』,明治図書出版.